

津房っ子のために…

8 日にまちづくり協議会による小学校の環境整備支援事業の一環でグリーンカーテン用のプランターの準備をしました。まち協役員と校長先生・教頭先生、そして力強い助っ人の津房っ子の先輩（高校生）の 11 名で子供たちのために頑張りました！

夏場の日差し避けの目的ですがゴーヤを育て収穫する食育にもなります。



やさしい人権のお話

『差別は受け継がない』

ある大学生の書いた体験談を紹介します。

私の姉は婚約者の母親から出身地を聞かれました。その後、姉が部落出身だという理由で母親や親戚から反対された婚約者は結婚の意思をなくし、姉たちの交際は終わりました。

私は、交際して2年になる彼氏に自分が部落出身であることを告白する決意をしました。言ってしまったら、姉のように2人の関係が壊れるかもしれないと思うと、悲しみのあまり涙が出てきました。私は泣きながらゆっくり話しました。彼は黙って私の話を聞き、私の話しが終わると「話してくれてありがとう。でも本当は知っていたんだよ」と言いました。

2人の交際が始まった頃、彼の両親は「これから彼女と付き合っていく中で、彼女の住んでいる土地が被差別部落だということを知り、そのせいで別れたりするような心の狭い、差別意識を持った人間にだけは育てて欲しくない」と思い、彼に話したそうです。私はそれを聞いて、今度は嬉しくて涙があふれました。そして、人権や差別に対してきちんとした考えを持っている彼の両親に本当に感謝しました。

差別は繰り返します。親から子へ受け継がれてしまうのです。だからこそ、私も将来、自分の子どもが生まれたら、しっかりと教育したいと思います。もっともっと人権・部落問題についてきちんと教育を受けた人たちが増えれば、部落問題はなくせると思います。

涙を流すほど勇気が必要だった彼女の気持ち、それをきちんと受け止めた彼の常識。

「正しく知れば、どんな差別もなくせる」と信じよう。



大分県人権啓発コラム「心ひらいて」より
安心院中央公民館 大久保 和則

津房共同墓地の清掃

14 日に津房遺族会による戦没者共同墓地の清掃が行われました。

制度の改訂による会員の減少と高齢化に伴い共同墓地の管理が大変になってきているのが現状です。しかし今回は以前会員だった方やご家族の方など数人加勢してくださいました。戦争で亡くなられた 132 名の尊い命に思い巡らせ、作業をされていました。



津房地区公民館便り

編集・発行
津房地区公民館
☎48-2001



胡蝶蘭がお出迎え!!

先月号のまちづくり協議会だよりでもご紹介がございましたが、檜本の河野洋一さんより見事な胡蝶蘭をご提供頂きました。玄関がとても華やかになりました。公民館に来館された方から一言目に「ほお～」と感嘆の声があがっていました。ありがとうございました。



お礼



元永八七子様(萱籠)ご逝去に伴う香典返しとして、喪主 元永淳一様より地区公民館に志を頂きました。

謹んで哀悼の意を表し、厚く御礼申し上げます。

津房地区公民館 小野芳己

津房句会

大隈草生 選
三月例会

兼題(花・あたたか・野焼き)

津房川村は総出の川原焼き・茂

(評)漸く春らしくなった。風のおだやかな日を選び川原の枯芦などを焼く、延焼防止の為、地区民総出の川原焼きは年中行事の一つで、春先の風物詩である。黒々と焼き尽くされた川原の土堤はやがて若い芽が伸び茂り虫や鳥や魚たちを育てる。



耳慣れぬ囁りを聞き立ち止まる・義彦

野焼きする自衛隊の一行事・聖枝

野火を追い走る人あり野火叩く・洋子

満開の花を仰ぎて足湯かな・一圭

野火煙豊前豊後の国境・草生



今日の
相原さんの作品



手づくりの兜を
被った萱籠窯の
お人形



どんな花が楽しみでした

昨年、油絵教室の江藤さんより挿し木したバラの苗をたくさん頂きました。どんな花を咲かせるのか楽しみにしていましたが、やっと花の時期になり様々な色の花を咲かせています。まだ苗が若く花数は少ないですが、訪れる方を楽しませています。

頂いた 矢車菊とキンセンカ

【矢車菊】

別名 …コーンフラワー
花言葉…優雅、繊細



どなたか分かりませんが…



休み明けに出勤するとさりげなくクレマチスが飾ってありました。ありがとうございました！

今後の予定

6月3日(金)	特定健診
6月9日(木)	料理教室



小野さんの

津房の昔ばなし

13.豊前一の孝行者 神崎右京・田宮

「一度は善光寺さんにお詣りしたかった。」

母は年と共に目を悪くし盲目となり、歩くことすらできなくなった。母一人に育てられた若宮八幡宮(檜本)の神職・神崎右京とその子・田宮は、母の願いを叶えようと背負い椅子を作り、信濃の善光寺に旅立った。父子が交代に母を背負い、お寺に泊まったり野宿をしながら5か月をかけて善光寺にたどり着く。善光寺では遠い豊前の国からの親孝行に感動し、寺の正面に額を掲げて称えた。帰国後、中津奥平藩の殿様の耳に入り、その孝行を賞賛した。

翌年に母は85歳で没した。右京は寛成元年に69歳で、田宮は文政9年に72歳で没した。

孝行墓は桂昌寺(地獄極楽)境内で大切に守られています。



桜の時期にお邪魔しました。花壇には季節の花がたくさん咲いていました。